



# 2020 2月 園だより

認定こども園 下関短期大学付属第二幼稚園  
山口県下関市彦島塩浜町2丁目2-21 ☎ 083(266)5821

## いただきます

先日、うめ組の男の子が、職員室にいる私のところに、「道のミラーのへんにあるのは何ですか？」と尋ねに来ました。理解するのに少し時間がかかりましたが、3週間前、坂上駐車場に取り付けたカーブミラーのことかなと思い、確認すると「そう」。そういえば、カーブミラーの支柱に、以前作ったカワセミの木工細工をアクセントとしてくっつけていたのです。そのことを男の子は聞きに来たのです。初めて見る色をした鳥が目にとまったのでしょうかね。



「飛ぶ宝石」とも言われる美しいカワセミと、まだ幼稚園では出会っていませんが、園の周りにはたくさんの野鳥がいます。最近では、椿の花にメジロが群がっています。そのメジロたちを2倍くらいの大きさのヒヨドリが追い払って、くちばしを花粉で真っ黄色にしながら蜜を吸っています。皆、冬の間飢えと寒さをしのいできたのでしょうかね。

ところで、ドイツ語には、「食べる」という意味に二つの単語があるそうです。一つは「フレッセン(fressen)」、もう一つは「エッセン(essen)」。前者は、野生動物がむさぼり食う、生きるすべとして食べる。後者は、人間がおいしく、楽しく食べる意味だそうです。日本語の「食う」と「食べる」もそれに似ていますね。メジロやヒヨドリのフレッセンに対し、私たちの場合はエッセンです。ただ、日本にはドイツ語にはない別の言葉があります。何かと言うとそれは、「いただく」。

「ご飯は食べるものではなく、いただくもの」、とは奈良県の薬師寺元管主、高田好胤氏の辞。「さあ、いただきますよ」と言うだけで、背筋が伸び、肘をついたり、足を組んだりできなくなります。「野菜も食べなさいよ」と言われるよりは、「野菜もいただきますよ」と言われた方が、なぜか食べなくてはいけない気持ちにはならないと思いませんか。

食事の前に手を洗うのは、衛生面の意味もありますが、手を清めるためだと聞いたことがあります。多くの命や労苦の結晶をいただく以上、清らかな手で食に向かうのが礼儀だからだそうです。そう聞くと、手洗いもまた、いい加減にはできなくなるのが不思議ですね。

食育の一環として、1月24日を園の「給食の日」とし、園給食に注目したり、関心を強めてもらったりする目的で、調理員と子どもたちが一緒に給食を食べる企画を予定していました。ところが、感染症がずっと続いているので、現在延期をしています。

さて、2月3日は節分です。大手コンビニの販売戦略によって一気にブームになった恵方巻きで、ついに社会問題となった食品ロス。「飽食の時代」の象徴ともいえます。県の広報誌「ふれあい山口」2月号によると、山口県だけでも年間7万トンの食品ロスが発生。計算上、毎日何と5万人分の食べ残しが捨てられているそうです。衝撃的な数字です。

「衣食足りて礼節を知る」。今の日本は、礼節をわきまえるに足る豊かな時代になっているはずですが、しかし、食に対して、私たち大人も含め、そのありがたさを忘れてしまっていないでしょうか。

「感謝」の反対の意味は「当たり前」だそうです。食べることが当たり前になっている昨今、感謝するどころか、横柄な態度で食卓に向かい、出されたものを残すことすらはばからない、「衣食足り過ぎて礼節を失う」世の中になっているように思えてなりません。カワセミの代名詞、宝石のような言葉「いただきます」を、持ち続け伝え続けていきたいものです。 (園長 寺本 明生)